

土づくりは農業の基本

～若手農業者グループのみどり戦略～

【若手農業者の悩み】

大分県臼杵市の野津地域は、夏秋ピーマン、葉たばこ、かんしょなどの生産が盛んな地域であり、新規就農者の数も年々増加しています。

しかしながら、近年の猛暑・豪雨や連作障害による収量の低下、コロナ禍での価格低迷といった状況から、就農間もない若手農業者が、営農に苦戦したり離農するといった課題も出てきています。

【グループでの課題解決】

地元の若手農業者グループ「臼津地域農業青年組織SOIL」は、なんとか課題解決できないものかと検討を重ね、「苦しい時ほど基本に立ち返る」をキーワードに、新規就農者が、農業の基本である「土づくり」の知識を深めながら情報交換を行える場として、定期的な「土壌勉強会」を始めました。

【土壌勉強会による成果】

「土壌勉強会」は、専門知識を持つ大分県の普及指導員がWebで講師を務め、土壌医検定の参考書などを活用して2～3か月に1回のペースで実施しました。

座学のほかにも、土壌採取方法の研修、土壌分析、分析結果の発表・意見交換、他メンバーのほ場の土壌観察なども行いましたが、さっそく成果が表れ、メンバーのだいこんのほ場で、分析結果をもとに土壌改良を行い、施肥設計を見直した結果、品質、収量、収益の向上につながりました。

【成果を今後に生かす】

メンバーからは、勉強会のおかげで、土壌改良、施肥設計の見直し、肥料コストの低減に加え、技術・知識の深まりや経営力強化につながったという声があり、新たにメンバーに加わる新規就農者も出てきました。

今後に向けてグループでは、土壌の物理・生物性の向上や経営力の強化をさらに進めていきたいとのこと。

この取組はみどり戦略に結びつく良い事例であるため、継続して実施されることが望まれます。



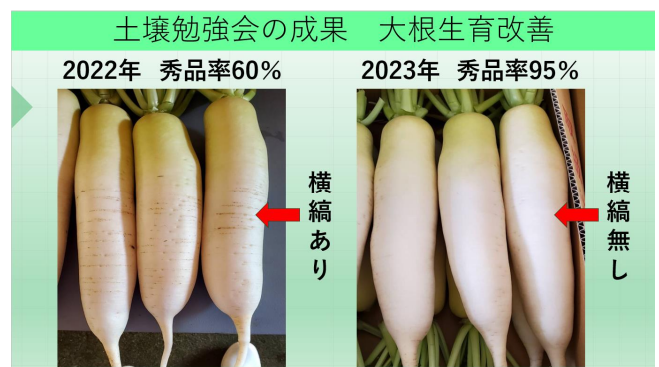
【土壌勉強会】



【土壌採取方法の研修】



【施肥設計を改善しただいこん畑】



【品質が改善されただいこん】